

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校

- 1 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
- 2 確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
- 3 先進的・先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

## 2 中期的目標

## 1 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 多様性を認める人間関係をはぐくむ活動の充実を図る。

- ア 誰もが個性や趣向を肯定され、安心して学校生活を送れる居場所としての集団づくりを進める。
- イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
- ウ 情報リテラシーの育成を図る。

※探究ナビや人権HRのさらなる充実を図ることで、学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答率（R01：81.6%、R02：84.1%、R03：85.5%）を令和6年度も80%以上を維持する。

(2) 安全で安心な学びの場とするための環境整備を行う。

- ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
- イ 生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
- ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。
- エ 中学校等との連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。

※情報共有を密にするなど、きめ細かな相談支援体制をさらに充実させることで、学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答を（R01：60.8%、R02：67.5%、R03：74.6%）を前年度比で増加させ、令和6年度には75%以上にする。

※保護者のニーズを踏まえた情報発信を行い、学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答を（R01：65.6%、R02：67.9%、R03：70.4%）を前年度比で増加させ、令和6年度には75%以上をめざす。

## 2 確かな学力の育成と授業改善（教育力向上と進路実現）

(1) 教育センターと一体となった教育実践の研究

- ア 電子黒板と1人1台端末を活用した授業についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
- イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
- ウ 授業研究やカリキュラムマネジメントにおけるアドバイザーとして教育センターのリソースを活用する。

※上記アイウに関する校内研修において、教育センターの指導主事から指導助言を得るなど協働で取り組み、研究を重ねる。

※授業公開週間をさらに充実させ、公開研究授業及び研究討議を複数回実施し、その成果を発信する。

(2) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組みとその成果の発信

- ア 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
- イ 学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
- ウ 読解力の育成・充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い」（R01：53.9%、R02：63.5%、R03：71.4%）を前年度比で増加させ、令和6年度には73%以上をめざす。

(3) あくなき探究心の育成

- ア 教科横断型である探究ナビを本校教育活動の軸と位置付け、活用型の授業に取り組む。そして、探究ナビ発表大会を実施し、探究活動の充実とその成果を発信する。
- イ 全教科において、「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。

※学校教育自己診断（生徒）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」（R01：53.9%、R02：63.5%、R03：81.6%）を前年度比で増加させ、令和6年度には82%以上にする。

ウ 進路指導を充実させる中で、自ら学ぶ生徒を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）で「将来の進路や生き方について考える機会がある」（R01：79.7%、R02：80.8%、R03：89.0%）を令和6年度も80%以上を維持する。

※3年間を見通した進路指導を着実に実行することにより、4年制大学・短期大学の進学者率上げ、令和6年度には併せて150名以上とする。

(R01：135名、R02：132名、R03：150名)

※令和4年度、「探究図書館を創ろう！」が学校経営推進費支援校に決定。評価指標として、図書館の来館者数を400名以上[R3 305]、利用書籍の統計変化を探るとともに、学校教育自己診断（生徒）で、「図書館を利用して探究活動を進めることができた」（新設）肯定率80%以上。大阪府教育センターフォーラム等での成果発表を行う。

## 3 「チーム教セン」による新しい課題への挑戦（支え合い高め合う組織の実現）

(1) 広報活動の充実と地域に開かれた学校をめざす。

- ア 近隣の中学校を訪問（約50校）するとともに、ホームページ等を活用した広報活動を充実させる。
- イ 近隣中学校との交流を推進し、中高教員相互の授業力の向上に繋げる。

(2) 生徒の自主的な活動を充実させる

- ア 生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等の行事を充実させる。

## (3) 校務の効率化と働き方改革の推進

- ア 全校一斉退庁日及びノークラブデーの活用をさらに促進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。
- イ 超過勤務時間が月80時間を超える教職員を年間で、45名以下をめざす。(R01 53名、R02 51名、R03 33名)
- ウ タブレットの活用によりペーパーレス化を推進することで職員会議等の時間短縮をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <p><b>○肯定的評価が増加した主な項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている(63.6→77.9) +14.3</li> <li>・自分のことで自信をもっていることがある(58.9→62.9) +4.0</li> <li>・授業では、実験・観察・実習をしたりすることがよくある(46.1→49.6) +3.5</li> </ul> <p><b>○肯定的評価が低下した項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まわりの人と協力することは楽しいことだ(87.6→82.9) -4.7</li> <li>・学校行事は充実していて楽しい(77.3→72.6) -4.7</li> <li>・命の大切さや人権を尊重した教育活動がなされている(87.6→83.2) -4.3</li> </ul> <p><b>【保護者】</b></p> <p><b>○肯定的評価が増加した項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある(40.7→57.8) +17.0</li> <li>・学校のPTA活動は、活発に行われている(67.6→76.4) +8.9</li> <li>・学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている(70.4→76.3) +5.9</li> </ul> <p><b>○肯定的評価が低下した項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、教育情報について、提供の努力をしている(82.7→78.0) -4.7</li> <li>・学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている(85.9→82.3) -3.6</li> <li>・学校の施設・設備は整っていて、良い学習環境が作られている(65.2→63.4) -1.95</li> </ul> <p><b>【教職員】</b></p> <p><b>○肯定的評価が増加した項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、地元とのつながりを大切にしたり取り組みをすすめている(40.5→75.5) +35.0</li> <li>・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている(71.1→95.9)+24.8</li> <li>・教員間でお互いの授業を見学する機会があり、授業について意見交換するなど自律的な風土がある(75.6→91.8) +16.3</li> </ul> <p><b>○肯定的評価が低下した項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている(100→91.8) -8.2</li> <li>・教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている(92.9→89.8) -3.1</li> <li>・豊かな人間力の育成をめざして、特別活動や部活動の充実を努めている(92.9→91.8) -1.0</li> </ul> <p>令和3年度のアンケート結果においては、生徒の回答23項目のうち22項目において肯定的回答が増加したが、今年度は、残念ながら、18項目において肯定的回答が低下した。ただ、低下率(-4.7)が最大の項目においては、元々比較的高い肯定率(87.6→82.9/77.3→72.6)からの低下であり、コロナ禍の中で工夫をしながら教育活動を行うことができたことは、一定の評価ができると思う。また、「自分のことで自信をもっていることがある」の項目の肯定率の向上(58.9→62.9)においては、本校の教育の柱である「探究ナビ」の授業の取り組みが貢献しており、今後とも、本校生徒の自己肯定率を上げる工夫をしていきたい。教職員においては、全教職員で分担して中学校訪問を行うなど、広報活動を充実させたことから教職員の school identity が高まった。これは今後の本校の発展に大きな期待が持てる。保護者の意見では、先生方に感謝の意を表す意見が多い中で、さらにわかりやすい授業を求めるなどの授業改善の要求や、老朽化している学校施設、設備の改善を求める声が多い。アンケートの意見を参考にしながら、変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校を、全教職員が一致団結して作っていきたい。</p>	<p><b>○第1回(令和4年6月20日)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校も部活動も活発で、希望の持てる学校だと感じる。部活動も無理せず、勝つだけでなく、協力しながら高校生活を楽しんでいる。生徒がデイサービスのサポートに来たり、文化祭でも交流があったので引き続きお願いしたい。</li> <li>・近隣の学校なので今後も交流していただくとありがたい。中学校もだんだん教育課程も変わってきている。個々の生徒の多様性を認め、伸ばしていき、多様な進路がある中できちんとした進路選択ができるよう協力をお願いしたい。</li> <li>・図書館が今後どう使われていくのか。大学でもただ単に飲食する場だけになっている場合もある。今後、図書館をどううまく使って、どんな仕掛けをするのか楽しみにしている。</li> <li>・ICTは今までできなかったことができるようになったこと、今まで時間がかかっていたことが簡単にボタン1つでできるようになったこと、ぜひうまく活用し、学びにつなげていただきたい。</li> <li>・授業で自分の考えをまとめて発表する機会があるというのが82%あり、そういった経験をした生徒が大学でも活躍できる可能性をもっている。基礎学力も必要だが、探究ナビをしっかりと身につけることで、良いファシリテーターを育成していただきたい。見ず知らずの価値観の違う人が集まって、うまく話し合いを進めて、目標に向けてグループを進めていくことができる中心になる人を育成してほしい。</li> </ul> <p><b>○第2回(令和4年11月18日)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の社会に求められる資質として大学で学ぶような内容を高校の段階で学んでいることは保護者目線として大変ありがたい。</li> <li>・探究図書館の今後に期待したい。自ら問いを立て、課題解決に取り組むことを通し、社会で必要とされる力を身に付けることを目標とする探究ナビにおいて、学習環境をより充実させることが可能な探究図書館は大いに期待できる。ラーニングコモンズのように、生徒たちが主体的、協働的に学習に取り組むことができ、また1人1台端末を活用できるような環境づくりに取り組んでいただきたい。</li> <li>・生徒指導の基準(特に学校行事の場面)についても、生徒の主体性を第一に考えてほしいという保護者の意見もある。学校を選ぶ基準として制服や身だしなみを重視する生徒が多いのも現実である。</li> <li>・素朴な生徒が多い印象。保護者から見て安心できる環境である。</li> </ul> <p><b>○第3回(令和5年2月17日)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断アンケートの質問項目において、「目的」と「手段」が一致した問い方に変更すべき問いが何問かある。例えば、生徒の質問14の「コンピューターやプロジェクトなどを使った授業がある」という問いなど。</li> <li>・探究ナビの授業は、以前よりもバージョンアップしているように感じた。3年間かけて「社会に必要な力」が確実に育成されるようしっかり組み立てられている。</li> <li>・コロナ禍においても、さまざまな創意工夫を凝らして教育活動を行っていかうとする姿勢が感じられた。そして、探究図書館の今後に期待するとともに、本校の取り組みに関する広報活動にますます力を入れてほしい。</li> <li>・学校として毎年着実に進化している。コロナ禍は逆に新しいことをするチャンスでもあるので、今後もさまざまなことに挑戦してほしい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 豊か でた くま しい 人間 性の はぐ くみ	<p>(1)多様性を認める人間関係のはぐくみ ア)居場所としての集団づくり</p> <p>イ) 課題の早期発見</p> <p>ウ) 情報リテラシーの育成</p> <p>(2)安全で安心な学校生活のための環境整備 ア)危険予知及び緊急事態への対応能力の向上</p> <p>イ) 相談できる環境の整備</p> <p>ウ) いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための教職員集団</p> <p>エ)教育相談体制及びガイダンス機能の充実</p>	<p>(1)多様性を認める人間関係のはぐくみ ア)より良い人間関係の構築をめざし、クラスづくりの導入となる活動を全教員が指導できるようにするための校内研修を年度当初に実施する。また、授業研究委員会を中心に授業改善を行い、授業等において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。</p> <p>イ) 支援の必要な生徒の情報を、担任会や教育支援委員会を中心に共有し、課題が深刻化しないように努める。</p> <p>ウ) あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行い、情報リテラシーを高める。</p> <p>(2)安全で安心な学校生活のための環境整備 ア)懸念される現実的な災害を想定した訓練を実施するとともに、感染症拡大による臨時休校等の緊急事態に備え、連絡体制を整える。</p> <p>イ)教科の準備室や職員室付近に机や椅子を設置し、気軽に質問や相談ができる場を拡充する。</p> <p>ウ)アンケート等を効果的に活用し、課題把握に努め、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。</p> <p>エ)相談しやすい体制づくりを進めるとともに、生徒への広報を適宜行。また、相談体制を充実させるための教員研修を実施する。</p>	<p>(1) ア) ①学校教育自己診断(生徒)で「クラスには自分の居場所がある」の肯定率80%以上を維持する。[85.6%] ②学校教育自己診断(生徒)で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率が前年度を上回る。[81.6%]</p> <p>イ) 学校教育自己診断(生徒)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率75%以上[74.6%]</p> <p>ウ) 人権教育委員会からSNS関連に係る注意喚起等の啓発活動を定期的に行うことで、SNS等、ネット上での課題事象の減少に努める。併せて、課題事象発生時の適切な対応についての校内研修を複数回行う。</p> <p>ア) 学校教育自己診断(生徒)で「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定率65%以上[63.6%]</p> <p>イ) 学校教育自己診断(生徒)で「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率73%以上[72.9%]</p> <p>ウ) 学校教育自己診断(教職員)で「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率90%以上を維持する。[95.5%]</p> <p>エ) ①学校教育自己診断(保護者)で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定率71%以上[70.4%] ②学校教育自己診断(生徒)で「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率80%以上を維持する。[80.3%]</p>	<p>ア) ①クラス開きの校内研修実施(4/5)「クラスには自分の居場所がある」の肯定率85.3%(◎) ②「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率80.0%(△)次年度は、探究ナビ、グローバルスタディーズの授業を中心に授業内容の研究・改善に取り組む。</p> <p>イ)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率72.6%(△)引き続き、生徒に教育相談を広報し、相談しやすい環境を作る。</p> <p>ウ) SNS等、ネット上での課題事象は5件発生。SNS対応に特化した校内研修を実施するとともに、情報リテラシー教育をより強力に実施する。(○)</p> <p>ア)「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定率77.9%次年度は、関係するポスターの掲示等の情報発信をさらに活発に行う。(◎)</p> <p>イ)「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率70.1%(△)次年度も教育相談体制をより充実させ情報共有を密にする。</p> <p>ウ) いじめ事象は1件。「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率100%で目標達成。引き続き、未然防止、早期発見、早期対応の重要性を全教職員で共通認識を深める。(◎)</p> <p>エ) ①「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」肯定率76.3%(◎) ②「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率77.0%(△)引き続き、生徒に教育相談をより広報し、活用しやすい環境を整えることでの肯定率の向上を図りたい。(○)</p>

<p>2 確かな学力の育成と授業改善・教育力向上と進路実現</p>	<p>(1)教育センターと一体となった教育実践の研究</p> <p>ア)電子黒板と1人1台端末を活用した授業についての研究・実践</p> <p>イ)観点別学習状況評価についてのさらなる研究・実践</p> <p>ウ)教育センターのリソースの活用</p> <p>(2)基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取り組み</p> <p>ア)知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>イ)学びを活かそうとする意欲の向上</p> <p>ウ)読解力の育成・充実</p> <p>(3)あくなき探究心の育成</p> <p>ア)探究活動の充実と再構築</p> <p>イ)「社会人基礎力」の育成</p> <p>ウ)自ら学ぶ生徒の育成と希望進路の実現</p>	<p>(1)教育センターのリソースを活用しながら一体となった授業研究や授業実践を行い、その成果を校内で共有するとともに発信する。</p> <p>ア)電子黒板と1人1台端末の環境の下での授業について、授業研究委員会を中心に実践研究を進める。</p> <p>イ)観点別学習状況評価の本格実施にあたり、本校の状況に合わせた評価指針を充実させる。</p> <p>ウ)教育センター大ホールを授業の成果発表の機会として活用したり、授業に関するアドバイザーとして指導主事を活用する。</p> <p>(2)基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取り組み</p> <p>ア)授業研究委員会、教科会議において、学力生活実態調査や実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。</p> <p>イ)各教科で付けたい力を生徒に伝え、各教科での学びを活用できるような課題を取り入れ、意欲を向上させる。</p> <p>ウ)すべての教科で、読解力の育成をめざした取り組みを実施する。読書等、文章を読むことを啓発するとともに、引き続き図書室の整備を進める。</p> <p>(3)あくなき探究心の育成</p> <p>ア)本校教育活動の軸と位置付けている探究ナビをはじめとする探究活動を充実させ、その成果を発信するとともに、3年間を見通した指導計画をさらに充実させる。</p> <p>イ)全教科で「社会人基礎力」(実社会で必要かつ役立つ力)の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。</p> <p>ウ)自ら学ぶ生徒を育成する。授業以外での学習習慣をつけさせるとともに、学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。また、一人ひとりの希望進路を実現するため、将来を見据えた科目選択を含む教育課程を編成するとともに、系統的な進路講習等の個別の支援を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア)学校教育自己診断(生徒)で「コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある」の肯定率90%以上を維持する。[90.2%]</p> <p>イ)各教科における課題を洗い出し、情報共有を行い、課題解決に向けての校内研修を複数回実施する。</p> <p>ウ)月1回の定例の幹部会議の開催、大ホール借用の行事に加え、合同で校内研修を2回行い、指導主事からのアドバイスや情報提供を受ける。</p> <p>(2)</p> <p>ア)①生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。の全平均が、前年比を上回る。[3.13]</p> <p>②授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を維持する。[3.15]</p> <p>イ)学校教育自己診断(生徒)で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率72%以上[71.4%]、「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率64%以上[63.6%]</p> <p>ウ)図書室の利用者数(授業での利用を除く)を前年度より増加させる。[305人]</p> <p>(3)</p> <p>ア)学校教育自己診断(保護者)で「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率80%以上を維持する[85.9%]</p> <p>イ)学校教育自己診断(生徒)で「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率80%以上を維持する[89.0%]</p> <p>ウ)①英語検定、数学検定の受験者数を前年度を上回る。 [英検39名、数検6名受験]</p> <p>②1年からの系統的な進路HRを実施(年間3回以上)及び系統的な進学講習の開催(長期休業期間合計4回)することで、各進学先の合格者数を前年比で上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年制大学[126]名</li> <li>・短期大学[24]名</li> </ul>	<p>ア)「コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある」の肯定率90.8%(◎)ICT機器の効果的な使用に関する校内研修を3回実施。延べ17名参加(◎)</p> <p>イ)授業研究委員会と教務部が連携し校内研修を3回実施。(◎)</p> <p>ウ)教育C幹部との定例の会議8回、大ホール借用の行事6回実施。指導主事との合同校内研修3回実施。今後も教育Cとの連携を推進していく。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア)①「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。[3.14](◎)</p> <p>②「知識や技能が身に付いたと感じる」[3.18](◎)引き続き、授業研究委員会をさらに充実させ、授業研究、改善に取り組む。</p> <p>イ)教え方に工夫をしてくれる先生が多い」68.6%(△)「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」62.5%(△)</p> <p>今年度は、授業公開週間を2回。次年度はさらに回数を増やすなど充実させたい。</p> <p>ウ)図書室の貸出数：年度末[408人]7月よりエレベーター工事のため閉館。引き続き、昼休みの放送、月ごとの図書館だよりの発行などを継続し、利用者を増やす。(○)</p> <p>ア)「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」82.3%で目標達成。(◎)</p> <p>イ)「将来の進路や生き方について考える機会がある」86.6%(◎)探究ナビやGSの授業を通して、将来の進路や職業などについて考える機会を与えた。次年度はさらなる充実を図りたい。(◎)</p> <p>ウ)①英検、数検受験者数 [英検55名、数検11名受験]◎</p> <p>②進路HR: 1年9回、2年9回、3年5回(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だより 1年9回、2年12回、3年6回</li> <li>・科目選択説明会：各学年2回実施</li> <li>・進路別説明会各学年2回実施</li> <li>・4年制大学合格者126名[126]</li> <li>・短期大学合格者15名[24]</li> <li>・専門学校合格者63名[50]</li> </ul>
---------------------------------------	---	---	---	--

